

発行:港区議会議員阿部浩子 TEL/FAX:070-9103-6477 E-mail:abehiroko7@gmail.com
住所:港区麻布十番2-4-1-201 HP:www.hiroko-abe.com

港区議会議員(立憲民主党) ひまわり通信

あ べ ひろ こ

阿部浩子

命と暮らしを最優先!!



令和8年第1回港区議会定例会 (2月18日~3月18日)

令和8年度予算総額2,681億8,392万円を可決

一般会計は2,143億円、国民健康保険事業会計、後期高齢者医療会計、介護保険会計の3特別会計をあわせた港区の令和8年度予算の全体額は2,681億円。基金の繰入は19億円。

提案していた区立小中学校の移動教室・夏季学園、校外学習の無償化シニア食堂への支援、家具転倒防止器具の助成、みなトクPAYポイント還元キャンペーンとプレミアム付商品券事業などが計上されました。歳入の根幹である特別区民税収入は1,057億円で過去最高額の計上。

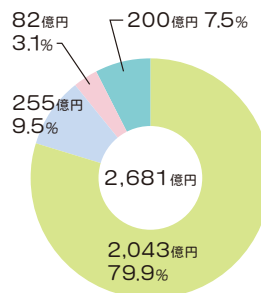
清家区長の予算案に賛成

将来に向けた持続可能な区役所改革は、令和9年4月の実現を目指しています。一部の会派からは反対の声がありますが、20年続いてきた5地区総合支所では専門的な相談がたらいまわしになるということも起きています。区役所改革は、人口増が続く港区には必要な改革であり、より一層の区民サービスの充実につながります。

物価高騰が続き、生活が厳しい世帯に寄り添った支援を!

円高による物価高、ガソリン価格高騰、区民の生活は大変厳しい状況です。生活が厳しいすべての世代の方々への寄り添った支援が引き続き必要です。私はこれからも命と暮らしを最優先する政治を港区からつづけていきます。

令和8年度予算



- 一般会計
- 国民健康保険事業会計
- 後期高齢者医療会計
- 介護保険会計

令和7年度と比べて予算割合では、後期高齢者医療会計が0.3%増。



阿部浩子



阿部浩子の議会報告

— 令和8年第1回定例会で区長・教育長に質問しました —

20歳のつどいには晴れ着の貸付支援を

質問：20歳の集いに洋服で参加されている女子がいる。経済的な問題で晴れ着を着用できないなら、振袖などの寄付を区民に呼びかけたらどうか。

答弁：経済的な状況に左右されず誰もが晴れやかな気持ちで式典に参加できるよう、区内企業等との連携も視野に入れながら、支援方法を検討していく。

阿部浩子の
思い

一生の思い出に、本人が希望する装いで出席してほしいです。港区には単筒に振袖が眠っている区民の方もいます。趣旨を説明すれば、快く協力して下さる方がいます。みなと子ども食堂は成人を迎える男子19名に企業のご支援でオーダースーツを1月にプレゼントしました。



区財政の負担を少なくするため、あらゆる手法で区有施設に確保していくべきと考えるかいかか。

答弁：暫定的な措置として民間ビルの床を確保する必要があると判断。将来にわたる財政負担の軽減と安定的な区政運営の確保を念頭に、区有施設の活用の可能性について検討をすすめていく。

質問：行政ニーズに対応するには場所の確保が困難。障害者や子どもの施設等、民間ビル借上げが増えている。今後、新たな行政ニーズのために、どのようにスペースを確保していくのか。

答弁：既存施設の用途転用や民間ビルの活用、限られた区有地を最大限生かすため、区有施設の複合化・集約化による新たな整備可能地の創出や、スペースの効率化について検討を進めている。

質問：総合福祉窓口については、利用者からも集約を望む声が多い。専門的分野の職員からは、チームで対応できる体制の要望、まちづくりにおいても、インフラ整備事業の分散から集約の声がある。職員の専門性と人材育成についてはどう進めていくのか。

答弁：福祉分野のケースワーク業務やまちづくり分野における緑化の普及、橋りょうや公園整備など、高度な専門性を要する業務については集約化により本庁各々が担う予定。

将来に向けた 持続可能な区役所への改革について

令和9年4月に向けて、20年間で激変した港区は環境の変化に対し、制度の見直しをすすめている。

現在の港区の課題

①区役所支所改革当初より、10万人の人口増、今後も人口増加が見込まれる。人口増への対応と、本庁舎がひっ迫している執務スペースの確保

②正規職員数の減少、専門性の高い業務の維持と人材育成を5つの支所で行うには限界

質問：継続的に民間の不動産を借りるのではなく、

職員の専門性向上と人材育成を図り、持続可能な区民サービスの提供につなげていく。

質問：総合支所には、町会などの協働推進課は維持される。地域防災として、町会・自治会や防災協議会と行政の災害時における役割分担を整理していくことが重要。区の考えは。

答弁：区は行政の役割として、避難所の開設や運営支援、被害状況の把握、情報発信及び物資供給など、公助として果たすべき事項を整理し、地域の方々と共有していく。

阿部浩子の
思い

12月に開催された定例会で、ひっ迫した本庁の執務スペースの環境改善のために、分庁舎賃借費用2億3千万円の補正予算を計上。一部の会派が反対し、切り取られた情報が流れ、区民の不安が急増した。年間家賃は2.6億円で5年間の契約。港区は、区民のニーズに対応するためスーパー等に区有施設の貸付を行っている。

港区奨学資金について

質問：今年度、給付型の金額を見直した。しかし貸付型の所得制限は撤廃したものの、貸付額は

変わっていない。学費の高騰を踏まえ、額の見直し、返済期間の延長をしていくべきではないか。

答弁：子どもたちが経済的不安を感じることなく修学できる、適正な貸付額や返済期間を検討していく。

より使いやすいみなとクPAYに

質問：子ども真ん中宣言で、昨年、3万ポイント付与、25%還元キャンペーン、物価高騰対策で区民ひとり1万ポイント給付等々、みなとクPAYはダウンロード数が増加している。今後も地域通貨として区民が利用しやすく、商店街の活性化にもなる手法について取り組むべきではないか。

答弁：港区商店街連合会とともに、クーポン機能をはじめ、多様な施策を取り入れながら、みなとクPAYが、区民の日常的な決済手段として定着するように取り組んでいく。

— 予算特別委員会質問 —

●元麻布3丁目用地の調査で、集会所や防災倉庫を建築できることが明らかになった。地域町会の声を聞き、地域が必要とする施設整備を。



●戦後80年・港区平和都市宣言40周年事業が3月20日に開催。広島市が制作した証言応答装置の体験やウクライナのVR体験で、多くの区民に平和について考える日になってほしい。

●ひとり親世帯の経済的自立を促進する「ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金」は使いにくく利用者が少ない。全国一律ではなく、港区独自の支給額にし、ひとり親の自立支援を。

●急なけがや病気への支援を。港区のひとり暮らしの割合は、56.9%。急病やけがで動けなくなった場合に、生活サポートや家事援助サービスなど、緊急時に対応できる仕組みづくりを。

●郷土歴史館の学校資料展示スペースだけではなく、廃校になった学校の資料の展示を。

●中学校の夏季学園は、平和の施設や日本伝統文化を学べるところへ。

●海外修学旅行は来年度で3年目。事業の前半に、総括と今後の方向性を決定する予定だが、税金の使いみちという観点からも、幅広い検討を。

阿部浩子の
思い

港区立郷土歴史館の地下1階に学校資料歴史展示スペースがあります。

ここに展示されているのは、廃校になった学校の資料はわずかです。同窓生のためにも、わかりやすい展示と掲示場所が必要です。

郷土歴史館は、旧公衆衛生院で港区指定有形文化財です。昭和13年に竣工しました。この国の土地と港区科学館がある旧柄絵小学校と交換し取得しました。





2026年度の主な事業

- 区立小中学校の移動教室、夏季学園、校外学習の無償化。中学生の夏季学園では、平和教育で広島に行く学校が御成門中と高陵中に。
- 学校図書館でモーニングスクールの実施。
- 小学校1年生までの全家庭に家事支援サービスの実施。
- 一時保育、一時預かり事業の保育料、利用料の一部無償化。
- 高齢者熱中症対策見守り事業として飲料水の配布。
- シニア食堂の支援
- MINATO DOG&CAT宣言の取組
- 家具転倒防止器具の助成
- 防災用品の支給
- 区立幼稚園の無料お弁当給食の実施
- 年4回みなとクPAYポイント還元



あべひろこの思い

3月19日に地元の六本木中学校とみなとスクールの卒業式に参列しました。みなとスクールは不登校に対応した中学校です。ずっと以前から設置を提案、昨年4月に開設されました。入学式で会った6名の生徒が卒業。4月から高校等の入学が決定している生徒たちは、自信に満ちたまなざしに変わっていました。

不登校児童生徒が増え続けている昨今、私たちができることはわずかなことです。

本人が一番に辛い毎日を送っています。生徒の答辞にも辛い思いを沢山経験してきたこと、これから夢に向かって歩みだすこと、その気持ちに涙が溢れました。人生はまだまだ始まったばかりです。いくらでもやり直しができます。一步一步ゆっくりでいいから歩いてほしいです。それが、みなとスクールを提案した私の思いです。



あべひろこの活動

NPO法人みなと子ども食堂

NPO法人みなと子ども食堂は今年1月で11年目になりました。区内のひとり親で生活が厳しい約200世帯を応援しています。

増上寺でのお米や野菜等の食料品等配布、手作りお弁当の配布、小学生への学習支援。

一昨年から毎月2回みんな食堂を麻布いきいきプラザで開催。高齢者も子育て世帯も一緒に食事ができる場所です。また、今年も3月に新学期応援イベントとして上履き、文房具、下着、ランドセルを配布しました。

引き続き、生活が厳しい子育て世帯を応援していきます。



皆様の物資等のご寄付をお待ちしております。

みなと子ども食堂

080-7960-0207



現在必要とされる物資は、お米、生理用ナプキン、おむつ等です。



あべひろこプロフィール

- 1968年生、秋田県秋田市出身。麻布十番在住
- 立憲民主党所属、港区議会元副議長
- 2003年初当選現在6期23年
- NPO法人みなと子ども食堂副理事長
- 麻布消防団団員、東京都動物愛護推進員、防災士、栄養士、温泉ソムリエ
- 家族：夫、娘（大学生）
- 趣味：琴、ジョギング、温泉めぐり



BLOG



X



Instagram



Facebook

予算特別委員会の詳細はHPに

阿部浩子

検索

